

481

昭和十八年一月廿四日(日)。

前寒といふから、さすがに何日か一連向程
前の早朝気温十六度、相当の寒気振りで、自來
所り中である。起きかけの氷浴には、浴場の約
one blockの距離にあらたけ、一寸閉口したものの、
翌朝日に到り、遠く気温上昇して、八十度だ。
寒中八十度ほどまだ想像も及ばず、初めて経験
である。午後六時半句会に出席、同好の御人
約十三名。先般退院後の日曜日の久し振りで
出席したのであつたが、矢張り腰工合が良くあつ
た、其の次の句会は従つて欠席したのであつたが、
今夜は堪へがたい村々等はあつた。

昨日午後、同胞の base ball game が柵の ground
に置かれたので其の見物のため、柵内には残つた
者は極めて少く静かである。林の如し。ベースボール
の音が soft ball ばかりで変態も無い。

上田
死去

上田仁助君(六十三歳)は長らく入院療養中
昨日死去したの事である。公君は Panama 在住
理髪業に従事し、病に冒され静養所に捕はら
れ盡し、引き続き入院、その後米に移送され
南米病院に患者として今日に到つたのである。リウ
マチスに患病といふ。僕が退院の際、既に
ドラクから同様の死は何時の問題だと思はれてゐた。

一月廿五日(月)

午後三時 2 Area に於て故上田君の葬儀執り

482

各区域の同胞は、捕虜兵を除き、全部会葬。引席の僧侶及び牧師は約六十名に達し、布哇の西に於ける教会に牧師、導師と共に、細雨裡に清経、厳肅に営はれた。

Idaho州 Hunt Relocation Center から十二月十六日附書面が大西昌子嬢より来た。例によって要領を付した書である、今 Center 構内の泥濘に堪へ難い旨が詳述に載つてゐる。僕の病状については "gradually recovering" と懇切に見解の解を認めてゐる。

本日も、在院中レタールの伊藤太夫から贈られた金糸の製の鱒むくも紙人形と、不肖文人の宛封送付。月一回 4 Pound 迄の物子は外寄への寄送は無税で取り扱つて呉れる。右人形は病氣快復退院の意味を察知して貴子喜望に送らうである。

今日わが Kakea 宛に配達された郵便は合計一十通に達したと云ふ。但し軽荷で一度検閲されるに付、暫く延着してゐるのは申上もよい。

此頃丹保及び高橋両氏が薩摩琵琶の稽古を始めたる。ねがひ1906の同僚中には、却々の趣味家が多い。佐田氏の俳句、~~高橋~~及び繪画、高橋氏の琵琶、丹保氏の琵琶、習字、繪画にて親世流い唱(最近稽古)、篠目氏の繪、佐々木氏氏の~~将棋~~将棋、高村氏の川柳、石塚氏の将

483

棋及び英語勉強。岡本君の怪等々である。何い
うな結構なやうであり大に推奨すべし。

夜に急に寒気増し、気温は急低下し始めた、午
前のおちろよと云う地方は、今日頃から freezing cold
になると豫報に於る。全く狂気候だ。

一月廿六日(火)

碓氷川沿いの寒風に堪えられず、目覚めベツトを起させ
てストーブに火を焚き、折しも痛快な稲妻がバツツ
内に閃き、まるで照射燈を近距離から照らした
やうな感じがした。電が来るやと思つてると其の瞬間、
猛烈な雷鳴が屋も崩れんばかりに響き渡った、
と同時に沛然と雨降り、雨と共に寒気愈々甚
しいので、時計を見ると午前二時である。餘り早
いで起きてぬる汗はけりながら復又床にもぐり込
んた。斯う寒いと便所の蓋の音が閉口した。

寒いと言ってもポータランドの冬と大差は無いが、バ
ツツに室内の防寒設備が不完全だから
やれぬやい。

萩、崎村君から報告、其の中最もものは来
る二月一日から、各自の保管をしてる所有金に
関し balance を明示する通帳の如きものが配
布され、其れによって毎月金三十弗を引き去り得る
やうになつたと、昨日 Robert Marshall が来て、若々
Interners に對し公表した、尚ほ夜 Balance 帳